

各県立特別支援学校長 様

教 育 長

国における緊急事態宣言に伴う県立特別支援学校における教育活動について  
(通知)

県立特別支援学校における令和 3 年 1 月 1 日以降の教育活動の実施については、令和 2 年 12 月 25 日付け特第 1454 号教育長通知「県立特別支援学校における令和 3 年 1 月 1 日以降の教育活動の実施に係る留意事項等について」において、当面、感染が拡大している期間については、感染リスクの高い活動を可能な限り避けた上で、学びを継続することとする旨を通知したところです。

この度、令和 3 年 1 月 7 日付けで、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県を対象区域とする国の緊急事態宣言が発出されたことを受け、同法に基づく緊急事態措置に係る神奈川県実施方針について、別添写しのとおり知事から要請がありました。

については、この要請を受け、県教育委員会としては次のとおり対応することとしましたので通知します。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況等については、日々変化していることから、今後の県内の感染状況や国の動向等を慎重に見極めた上で、対応について変更を行う場合があります。その際は改めて通知します。

**【緊急事態宣言期間中の教育活動に係る基本的な対応】**

- 本県の感染状況、国の対処方針等を踏まえつつ、「特措法に基づく緊急事態措置に係る神奈川県実施方針」に沿って対応することを基本とし、感染防止対策を徹底しながら学校運営を継続する。
- 児童・生徒等、教職員の感染が確認された場合、保健所による濃厚接触者の特定や消毒作業などの必要な対応が終了するまでは、臨時休業とする。
- 登校に不安を感じている児童・生徒等については、その出欠席について柔軟に対応するとともに学びの保障に取り組む。
- 時差通学及び短縮授業を徹底する。改めて公共交通機関利用の児童・生徒等について、混雑時間等を確認した上で学校長が登下校時刻を設定する。
- 学習活動については、感染防止対策を講じても、なお飛沫感染の可能性が高い学習活動は行わないようにする。
- 部活動については、校内における活動を原則とし（平日の放課後のみ週 3 日以内）感染リスクの高い活動は中止する。
- 修学旅行等については、延期または中止する。

## 【緊急事態宣言期間中の教育活動に係る具体的な対応】

- 1 感染防止対策の徹底について
- 令和2年12月11日付け特第1439号保健体育課長、特別支援教育課長、学校支援課長通知「県立特別支援学校における保健管理等に関するガイドラインの改訂について」に基づき、特に次の点に留意して感染防止対策の徹底を図ること。
  - ア 多くの児童・生徒等が触れる可能性のある共用部分の消毒などをはじめとした、感染防止対策に引き続き取り組むこと。
  - イ 登校時の児童・生徒等の健康観察の確認を徹底すること。
  - ウ 学校で児童・生徒等、教職員の感染が確認された場合、保健所による濃厚接触者の特定や消毒作業などの必要な対応が終了するまでの間、校長は、保健所からの要請や学校医等の意見を聴取の上、教育委員会と協議し、臨時に学校の全部を休業とすること。
  - エ 放課後の活動等は最小限の範囲とし、下校時における公共交通機関の混雑をできるだけ避けることができるよう、児童・生徒等の下校時刻を改めて設定すること。
- 学校教育を継続させるため、校内における感染防止対策に関し、次の点について児童・生徒等への指導を徹底すること。
  - ア 児童・生徒等が、自ら感染予防に留意し行動することができるよう、日常における基本的な感染防止対策（手洗い・マスク着用・3密の回避）を実施するよう指導すること。
  - イ 児童・生徒等が、毎朝の検温などの健康観察とその記録を徹底するよう指導すること。また、発熱等体調不良の症状がある場合は、自宅で休養するとともに必要に応じて医療機関を受診するよう促すこと。
  - ウ 暖かい服装を心がけることや、換気の工夫等により、可能な限り常時換気に努めること。
  - エ 特に、共用する教材器具等を使用した後は、石鹸による手洗いを指導すること。
  - オ 登下校で公共交通機関を利用する際は、必ずマスクを着用し、会話を慎むよう指導すること。また、下校時は寄り道をせず、まっすぐに帰宅すること、とりわけ、下校途中での飲食はしないよう指導すること。
  - カ 給食（昼食）時など、校内の食事場面における飛沫感染を防ぐため、対面で食事することを避け、会話を控えるよう指導すること。なお、座席の間隔は、できるだけ2m（最低1m）空け、状況に応じて衝立や仕切りを使用し、空間を仕切ることで一定間隔を保つこと。
  - キ 食べ物、飲み物を共有しないよう指導すること。
  - ク 給食の配食を行う児童・生徒等及び教職員は、下痢、発熱、腹痛、嘔吐等の症状の有無、衛生的な服装をしているか、手指は確実に洗浄したか等、給食当番活動が可能であるかを毎日点検し、適切でないと認められる場合は給食当番を代えるなどの対応をとること。
  - ケ 食事の介助は、関わる人数を減らす、マスクを着用する、介助中は自身の喫食をしないなどの感染症対策をすること。なお、児童・生徒等に対面での指導が必要な場合などは、保護者と相談のうえ、教職員は必要に応じてフェイスシールド等を活用し、介助を交代する場合は、その都度手洗い（手指消毒）を行うこと。

- 県立学校で感染が判明した児童・生徒等の感染経路のうち、最も多くを占めるのが家庭内感染であることを踏まえ、各学校においては、保護者に家庭での感染予防に協力を依頼すること。

## 2 学習活動における留意事項について

- 緊急事態宣言期間中は、学習活動における感染リスクを低減するため、特に次の点に留意して授業等を実施すること。
  - ア 授業実施の際は、常時換気を基本とし、常時換気が難しい場合でもこまめに換気を行うとともに、原則、マスクを着用させ、児童・生徒等同士の間隔を可能な限り確保すること。
  - イ 発表や意見交換を伴う活動は、ＩＣＴ機器を活用することやワークシートに記入することなどにより、児童・生徒等同士の接触や近距離での対話をしないよう工夫すること。
  - ウ 児童・生徒等が近距離で対面形式となるグループワーク等や近距離で一斉に大きな声で話す活動は行わないこと。ただし、近距離で対面とならない形で行う学習活動についてはこの限りではないこと。
  - エ 対面とはならない形でペアワーク等を行う場合は、ペア等を組む相手を固定すること。
  - オ 出前授業や行事等における、外部講師の活用は控えること。
  - カ 授業等については、各教科の特性に応じた留意事項を記載した別紙１を参考にする。
  - キ 今後の感染状況により「分散登校」に移行することも視野に入れて、オンラインによる学習を実施することができるよう、各学校において準備を進めておくこと。

## 3 児童・生徒等の主体的な活動における留意事項について

- 児童・生徒等の主体的な活動の実施においても、感染防止対策を徹底するよう児童・生徒等を指導すること。
  - ア 児童・生徒会活動の実施に当たっては、基本的な感染防止対策（マスク着用、換気、身体的距離の確保）を徹底するとともに、校内放送やＩＣＴの活用などの工夫を講じることも含めて指導すること。
  - イ 部活動については、校内における活動を原則とし（平日の放課後のみ週３日以内）感染リスクの高い活動は中止する。また、実施に当たっては、感染防止対策を講じていながらも感染リスクの高い活動は行わないことなど、別紙２を参考に適切に取り扱うこと。

## 4 学校行事の実施における留意事項について

- 学年・学部を超えて児童・生徒等を集合させる学校行事等は延期又は中止とすること。全児童・生徒等を対象にした学校行事等を行う必要がある場合には、校内放送やＩＣＴを活用して教室で実施するなどの工夫を行うこと。
- 修学旅行は、延期又は中止とすること。
- 学年・学部単位以上の規模で、校外（敷地外）で実施する学校行事は延期又は中止とすること。

- 合唱コンクール等の歌唱を行う学校行事は延期又は中止とすること。
- 学年・学部の単位を超えない規模での学習成果発表会を校内で行うことは可能とする。実施に当たっては、ICTの活用を含め、感染防止対策を徹底すること。

## 5 医療的ケアが日常的に必要な児童・生徒等や基礎疾患等のある児童・生徒等への対応について

- 医療的ケアを必要とする児童・生徒等（以下、「医療的ケア児」という）の対応として、「学校の新しい生活様式 Ver. 5」を基本としつつ、次の文書も参考としながら適切に対応すること。

### <参考>

- 文部科学省 6 月 19 日付け事務連絡

「医療的ケアを必要とする幼児児童生徒が在籍する学校における留意事項について」

- 文部科学省 6 月 19 日版

「特別支援学校等における新型コロナウイルス感染症対策に関する考え方と取組」

- 厚生労働省 5 月 20 日付け

「新型コロナウイルス感染症に係る医療的ケアを必要とする児童への対応について（その3）」

## 6 スクールバスの対応について

- スクールバス内の過密状況を解消するために、できる限り座席配置の工夫を行い、児童・生徒等同士の間隔を空けること。児童・生徒等同士の間隔を十分空けることが難しい場合には、安全面に配慮した防護スクリーン（防護カーテンや仕切り等）を座席間に設置するなど、飛沫感染や接触感染を防止する対策をとること。
- 可能な限りエアコンの外気導入や窓の開放により車内換気を行うこと。
- 学校発着時のスクールバス乗降の際、昇降口の周辺が密集しないよう、げた箱の配置を分散したり、児童・生徒等が教室を出る時刻をずらしたりするなどの工夫を行うこと。

## 7 寄宿舎における感染症対策について

- 令和 2 年 5 月 22 日付け「県立学校の教育活動の再開等に関するガイドライン（特別支援学校）」や「学校の新しい生活様式 Ver. 5」を踏まえた、万全の感染症対策を講じること。
- 寄宿舎内での活動における 3 密を避け、手洗いや咳エチケットの徹底、消毒設備（アルコール消毒液など）の設置、ドアノブなどの多数の者が触れる場所の定期的な消毒、定期的な換気、近距離での会話や発声等の際のマスクの着用などにより、環境衛生管理を徹底すること。
- 朝夕の検温等の健康観察を行うなど、健康管理を徹底すること。
- 入舎する児童・生徒に、発熱や風邪症状があるときや体調がすぐれない場合は、保護者に自宅休養を依頼すること。
- 入舎する児童・生徒について、感染の疑いがあると判明した場合、感染が判明した場合又は在籍する学校が臨時休業となった場合は、特別支援教育課長と寄宿舎における対応を協議すること。

## 8 地域の障害福祉サービス機関等との連携について

- 各学校は、令和2年8月26日付け教育長通知「県立特別支援学校の8月31日以降の授業等の教育活動について」を踏まえ、「放課後等デイサービス」を運営する事業所と連携し、下校時刻と事業所の開所時刻の円滑な接続に向け、連絡・調整を行うことで、児童・生徒等の放課後の「居場所」の確保に取り組むこと。

## 9 感染状況に不安を抱く児童・生徒等・保護者への配慮について

- 感染が拡大していることへの不安により、保護者から休ませたいと相談のあった児童・生徒等については、本県の感染状況を踏まえ、合理的な理由があるものとし、校長の判断により児童・生徒指導要録における出欠席の取扱いは「校長が出席しなくてもよいと認めた日」とすること。
- 感染が拡大していることへの不安により、登校を控える児童・生徒等に対しては、感染者又は濃厚接触者と認定されたことにより登校できない児童・生徒等と同様、家庭学習を適切に課すとともに、電話等の様々な手段を通じて学習の状況や成果をきめ細かく把握し、当該児童・生徒等の学びの保障に取り組むこと。

## 10 いじめ、偏見、差別等の防止について

- 児童・生徒等の心のケアに努めるとともに、いじめ、偏見、差別等の防止に向けた取組、指導を徹底すること。

## 11 PTAの活動について

- PTAの活動については、PTA役員等とよく話し合っ、必要最小限の活動に留めること。また、活動する場合は、感染防止対策を十分に取って行うこと。

## 12 学校施設開放について

- 県民の健康的な生活を維持するため、学校施設開放は継続するが、不要不急の外出、特に夜間の外出を自粛する必要性を踏まえ、夜間（19時以降）における利用は中止とする。夜間利用の中止期間は、令和3年1月8日（金）から緊急事態宣言期間中とする。

問合せ先

【学習活動に関することについて】

特別支援教育課

教育指導グループ 山田、荒井

電話(045)210-8276 (直通)

【部活動（運動部）に関することについて】

保健体育課

学校体育指導グループ 桐原、小松

電話(045)210-8312 (直通)

【部活動（文化部）に関することについて】

高校教育課高校教育企画室

高校教育企画グループ 桜井、小原

電話(045)210-8254 (直通)

【いじめ、偏見、差別等の防止に関することについて】

学校支援課

県立学校生徒支援グループ 齋藤、石川

電話(045)210-8295 (直通)

【PTA活動に関することについて】

生涯学習課

社会教育グループ 櫻木、大村

電話(045)210-8347 (直通)

【学校施設開放に関することについて】

企画推進グループ 貝戸、比留間

電話(045)210-8342 (直通)